



プレスリリース

2017年11月21日

ジョージアのワインは、世界最古

****ジョージアがワインの発祥の地であることが新たな研究で証明された****

ジョージアの人々はコーカサス地方で、新石器時代（紀元前6000-5800年）という古い時代にワインを造り楽しんでいたことが、11月13日（月）にPNAS*が発表した新しい研究結果で明らかにされた。これは、これまでに発見されたぶどう栽培とワイン醸造の有形の遺物の中で最も古いものであり、イランのザグロス山脈のバジ・フィールーズ・テペ遺跡でのかつての歴史的な発見よりさらに600-1000年ほど古い。

これは、「古いワインのインディ・ジョーンズ」として知られるペンシルバニア大学のPatrick McGovern科学ディレクターが率いる国際的なチームにより、ジョージアの2か所から新たに発掘された物に、最新式の技術を適用して得られた結果である。

黒海に接するジョージアは、ヨーロッパとアジアの間のコーカサス山脈の麓に位置し、そのダイナミックで伝統的なワイン造りの活動により知られている。この国は、ワイン愛好家と専門家から関心を持たれている。

今日、ジョージアは、クヴェヴリでワインを造るという古い伝統を忠実に残している。このクヴェヴリは大きなセラミックの容器で、地中に埋められ、独特の「琥珀色」のワインを生み出す。ユネスコは、この他に類を見ない伝統的手法を、無形文化遺産として認定した。

「ヨーロッパからブリテン島が切り離され人々が狩猟生活をしていた頃、ジョージアではすでにぶどう畑と伝統的生産手法を含めて、農業文化が確立されていたことを考えると驚かされます。私たちは、ジョージアの文化の中心に古いワインの伝統が維持されていることを誇りに思っています」と、ジョージアの Levan Davitashvili 農相はコメントしている。

ごく最近では、ジョージアの古いワイン文化が、ボルドーのラ・シテ・デュ・ヴァンで紹介された。この施設は、ワインの現存する遺産を集めたもので、初の「招待産地」として、「ジョージア、ぶどう栽培の発祥の地」という特別展を行った。制作は、ジョージアの国家、トビリシのジョージア国立博物館、ジョージアワイン協会、ジョージアの国立博物館のコレクションの中から125点の芸術と年代物の写真が展示された。ジョージアの神話、民間伝承、芸術、ワインがその基本をなす食の伝統を紹介するこの展示は、世界の各都市でおこなわれることになる。

詳しい情報と写真は： Chris Skyrme chris.skyrme@sopexa.com 020 7312 3644

注:

*PNAS Publication

南コーカサスにおけるジョージアの初期新石器時代のワイン
Early Neolithic Wine of Georgia in the South Caucasus



By Patrick McGovern, Mindia Jalabadze, Stephen Batiuk, Michael P. Callahan, Karen E. Smith, Gretchen R. Hall, Eliso Kvavadze, David Maghradze, Nana Rusishvili, Laurent Bouby, Osvaldo Failla, Gabriele Cola, Luigi Mariani, Elisabetta Boaretto, Roberto Bacilieri, Patrice This, Nathan Wales, David Lordkipanidze.

Universities of Montpellier, Pennsylvania, Copenhagen, Milan, Toronto, INRA Montpellier, EHESS, CERCEC, Scientific Research Centre of Agriculture of Georgia, Georgian National Museum

興味深い事実:

新石器時代は地球上で大きな変化が続いた:

6100 BC – Storegga Slide (ストレッガ地すべり) がノルウェー海に大津波を引き起こす。

6000 BC – Doggerland (ドッガーランド)、イギリスとヨーロッパをつなぐ陸の橋が海の中に消える。

5677 BC –マザマ山の火山噴火により、オレゴンのクレーター湖ができる。

5600 BC –レッド・ペイント・ピープルが現在のカナダのラブラドルからニューヨーク州に住みつく。

紀元前 6 世紀末と 5 世紀初め– ロシアのヴォルガ川中流でサマラ文化が始まる。

5500 BC –中国で新楽文明が始まる。

ご存知ですか?

多くの言語学者は、「ワイン」という単語は、ジョージアでワインを意味する'ghvino'が起源だと考えている。

ジョージアのクヴェヴリでのワイン造りの伝統はもちろんのこと、ジョージアの多声音楽の伝統とこの国のアルファベットもユネスコの無形文化財として認められている。

ジョージアには、高山性から亜熱帯性や半砂漠まで多様な気候の地域があり、生態学的に世界で最も多彩な国の一つとして知られている。

ジョージアは、成長著しいファッションの発表の場でもある。メルセデスベンツ・ファッションウィークは、年に二回行われる最高のファッションイベントである。

ジョージア出身のデナ・グヴァサリア/Demna Gvasalia はバレンシアガ/Balenciaga の芸術ディレクターである。彼はファッションブランドのヴェットモン/Vetements の共同設立者でもある。

歌手で作詞作曲家、音楽家のカティムルア/Katie Melua はジョージア出身である。2016 年、彼女はゴリウーマンズショア/Gori Women's Choir と 'Winter in Tbilisi'(トビリシの冬)を録音し、欧州ツアーをおこなった。

ジョージアは伝統的にラグビーが強い。ナショナルチームは世界を駆け回り、国際試合を行っている。ナショナルチームのシャツの公式ロゴは、ぶどうの若枝である。



日本からジョージアに行くには：

トビリシ、ジョージア

日本からの直行便はありません。日本からロンドンへ。ジョージアンエアウェイ (georgian-airways.com) でロンドン・ガトウィック空港からトビリシ国際空港へ。

ウィズエア (wizzair.com) でルトンからクタイシへの移動が可能です。トビリシから 北西 150 マイルです。

トビリシの魅力

ムトゥクヴァリ川が人口 150 万人のこの都市を分けている。右岸はトビリシの旧市街で多くの観光客を引き寄せ、この都市で最も感動的で歴史的な場所、カフェやバー、魅惑的な脇道や素晴らしい博物館が近くにある。ムトゥクヴァリの左岸は平日からにぎわう場所で独特な雰囲気のあるバズロバの中央市場やおしゃれなファブリカのブティックやレストランがある。

トビリシの三位一体聖堂（サメバ大聖堂）や 6 世紀に遡るアンチスハティ聖堂など、トビリシの教会にもぜひお越しいただきたい。

音楽が好きの方は、ジョージアのボーカルグループの演奏を見ていただきたい、またジョージアの民族音楽と楽器の博物館にも足を運んでいただきたい。

都市を一望するためには、リケ公園からナリカラ要塞までケーブルカーに乗ると便利。

公衆浴場のオルベリアニ浴場も訪れていただきたいープーシキンやデュマの例にならって。

国立博物館一下方の階には紀元前の黄金の宝飾やその他の昔の展示品、上方の階には 1921 年から 91 年までのソビエト連邦下のジョージアの展示

植物園一かつて王家の憩いの場所だった。地元の人たちがピクニックをしたり、結婚式の写真を撮影している。

食べる／飲むー旧市街はコーヒーハウスや、ジャズの生演奏付きのバーやカフェがある。Kartuli Sakhli や Tsiskvili でジョージアの伝統的な料理をお楽しみいただきたい。

ショッピング

ファブリカは、伝統的デザインの地元で造られた敷物。固有のモチーフの繊細なパターンのテーブルクロス。復活した古い芸術で、七宝焼きの宝飾品であるミナンカリもお探しいいただきたい。

ザールブルッケン橋近くの川岸を散歩して、本や新聞を売る露店や蚤の市もお楽しみいただきたい。